

しもとくじらしゆく

下徳次郎宿跡

下徳次郎宿は江戸時代、上・中徳次郎宿とともに、江戸日本橋を出立してから、日光道中21宿の18番目の宿場町として栄えた。

3宿の中では南端に位置し、宿の長さは3町12間（349m）、家数は30軒ほどであった。宿内には問屋場兼仮本陣1軒、仮脇本陣1軒、高札場1カ所が設けられていた。現在地の



金田氏宅が、問屋場兼仮本陣跡地である。寺院として成就院、長林寺、修験として明王院、常楽院、お堂として下町薬師堂があった。また、宿に入る手前（下金井町北西端）には一里塚が、入り口付近（山王団地入口交差点）には「大谷道」の道標が今に残る。

当時の人々は旅籠のほか、農業と商業を兼ねる農間商人も多く、酒屋、醤油屋、油絞り、紺屋（染め物屋）、綿打ち、水車、木挽きなどに従事していた。



富屋地区まちづくり連絡協議会 令和2年建立